

1 令和4年度野生傷病鳥獣保護收容事業実施報告書取りまとめ結果について

野生傷病鳥獣保護收容事業(令和4年度第1期～第4期) 集計 永松

保護頭羽数	鳥類	獣類
88 頭羽 (158 頭羽)	84 羽 (155 羽)	4 頭 (3 頭)

括弧内は令和3年度第1期～第4期

期間別收容状況

件数	第1期(4～6月)	第2期(7～9月)	第3期(10～12月)	第4期(1～3月)	合計
鳥類	41	30	8	5	84
獣類	1	2	0	1	4
計	42	32	8	6	88
R3	57	40	39	23	158

対象外動物の收容状況

対象外鳥獣類	第1期	第2期	第3期	第4期	合計
アオサギ	1	0	0	0	1
マガモ	2	0	0	0	2
カラス	2	3	0	0	5
ドバト(カワラバト)	2	0	0	0	2
キジバト	1	1	0	0	2
スズメ	8	8	0	0	16
ムクドリ	4	1	1	0	6
タヌキ	0	1	0	0	1
ハクビシン	0	1	0	0	1
合計	20	15	1	0	36
全体に対する割合	50.0%	46.8%	2.5%	0%	40.9%
R3	31.6%	27.5%	2.6%	18.2%	21.5%

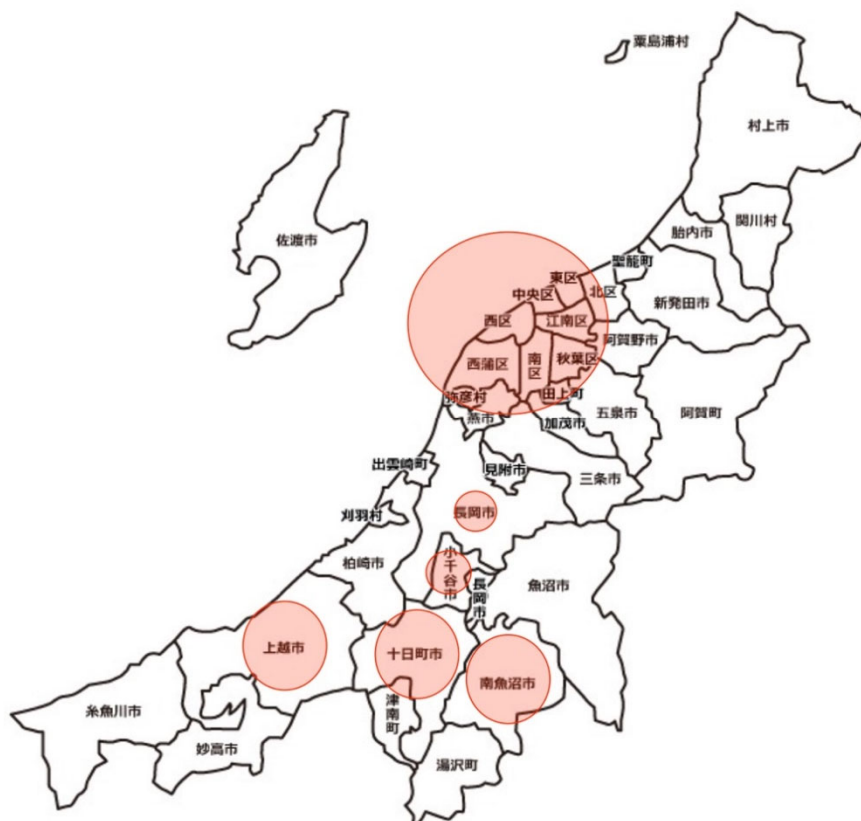
転帰別收容状況(県へ引渡(生体)、県へ引渡(死亡)、放鳥獣、死亡)

転帰	第1期	第2期	第3期	第4期	合計	割合
県へ引渡(生体)	18	14	4	1	37	42.0%
県へ引渡(死亡)	1	0	0	0	1	1.3%
放鳥獣	0	3	2	3	8	9.0%
死亡	23	15	2	2	42	47.7%

令和4年度 野生傷病鳥獣保護収容状況 第1期(4~6月)

保護地域	件数(うち獣類)	
新潟	33(1)	アオサギ1、マガモ1、カラス2、ドバト(カワラバト)2、キジバト2、スズメ8、ムクドリ3、タカ1、カッコウ1、フクロウ1、ツバメ4、セキレイ1、ヒヨドリ2、ウグイス1、コウモリ1、不明2
燕	1(0)	スズメ
長岡	1(0)	フクロウ
小千谷	1(0)	スズメ1
十日町	2(0)	マガモ1、ツバメ1
南魚沼	2(0)	ムクドリ1、ツバメ1
上越	2(0)	ツバメ1、レンジャク1
総数	42(1)	

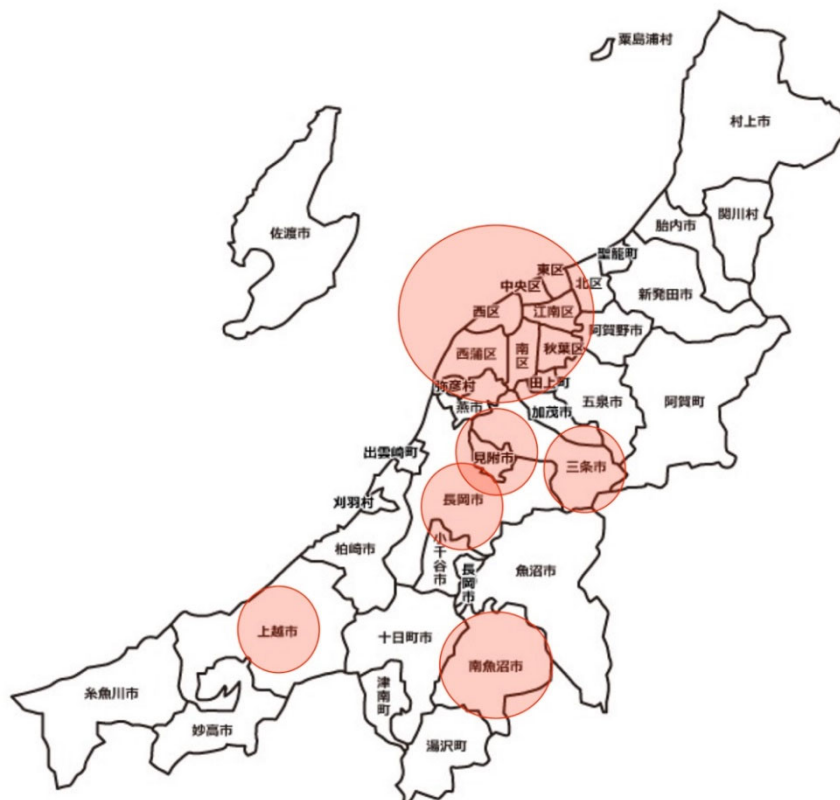
転帰: 県引き渡し 19 件、放鳥 0 件、死亡 23 件



第2期(7~9月)

保護地域	件数(うち獣類)	
新潟	22(1)	カラス3、キジバト1、スズメ3、ムクドリ1 カモ(マガモ、カルガモ以外)1、カモメ1 ハト(ドバト、キジバト以外)4、ヒバリ1、ツバメ1、 ウグイス1、ヒタキ1、アトリ1、ハクビシン1、不明2
三条	2(0)	スズメ2
見附	2(0)	ハヤブサ1、ツグミ1
長岡	2(0)	カッコウ1、カワセミ1
南魚沼	3(1)	スズメ2、タヌキ1
上越	2(0)	スズメ1、サギ(アオサギ以外)1
総数	32(2)	

転帰: 県引き渡し 14 件、放鳥 3 件、死亡 15 件

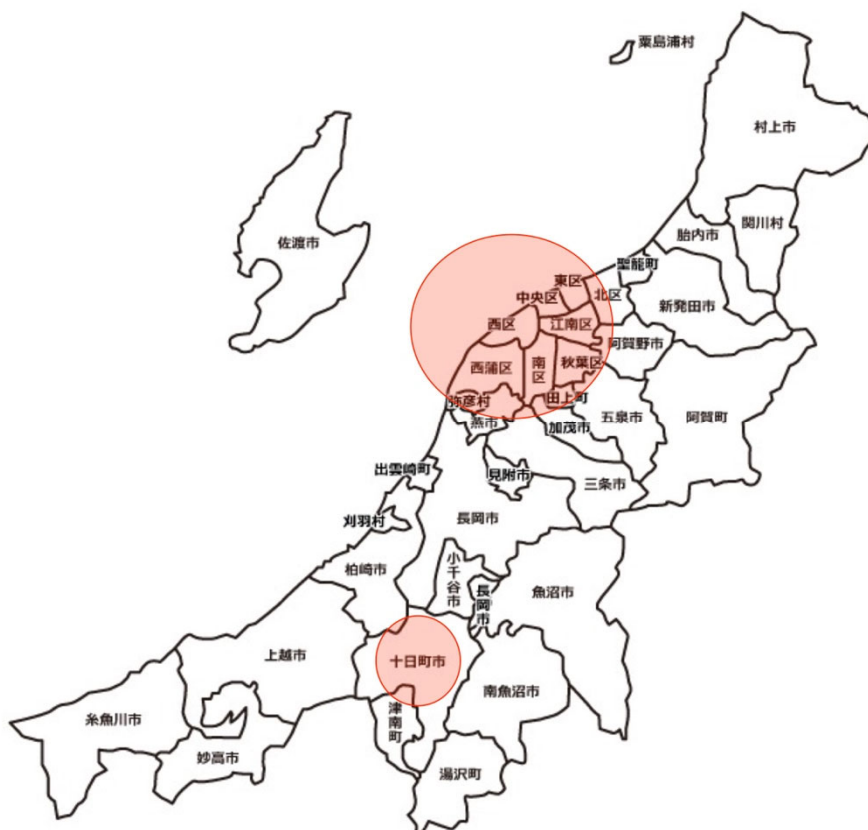


第3期(10~12月)

令和4年10月16日に新潟市北区のハヤブサから高病原性鳥インフルエンザが検出されたことを皮切りに、聖籠町のノスリからも検出され、10月16日~11月18日まで野鳥監視重点区域に指定され、動物病院における野生傷病鳥の受け入れ不可の通知が出された。また、11月20日に胎内市のハヤブサからも検出され、11月20日~12月18日まで受け入れ不可の通知が出された。

保護地域	件数(うち獣類)	
新潟	6(0)	スズメ1、ミズナギドリ1、サギ(アオサギ以外)1、カモ(マガモ、カルガモ以外)1、ヒタキ1、不明2
十日町	2(0)	ミズナギドリ2
総数	8(0)	

転帰:県引き渡し4件、放鳥2件、死亡2件



第4期(1~3月)

令和5年1月5日に新潟市中央区のノスリから高病原性鳥インフルエンザが検出されたことを皮切りに、村上市・新発田市・胎内市のハシブトガラスを中心とした野鳥からも検出され、1月6日~5月6日まで野鳥監視重点区域に指定され、動物病院における野生傷病鳥の受け入れ不可の通知が出された。

保護地域	件数(うち獣類)	
十日町	2(0)	ミズナギドリ 2
南魚沼	2(0)	ハト科(ドバト、キジバト以外)1、カワウ 1
上越	2(1)	サギ科(アオサギ以外)1、ニホンノウサギ 1
総数	6(0)	

転帰: 県引き渡し 1 件、放鳥 2 件、死亡 3 件

